

## 第 574 回経済学会例会報告

例会日時 2018 年 7 月 18 日

報告論題 「生産の国際的フラグメンテーションと平均波及長」

報告者 萩原 泰治

### 報告要旨

グローバル化に伴い、生産過程が国境を越えた広がりを持つようになったといわれている。これを「生産の国際的フラグメンテーション」と呼ぶ。一方、産業連関分析におけるサプライチェーンの長さを計る指標として、Dietzenbacher ら(2005)は、平均波及長 (Average Propagation Length: APL) という指標を提案した。国際産業連関表に適用した APL は、フラグメンテーションを反映していると考えられている。しかし、実は国境を越える取引を直接に反映しているとは言えない。萩原(2015)は、APL を分解し、越境取引に関する APL を定義した。本報告では 1995-2014 年をカバーする国際産業連関表 (WIOD) を用いて、フラグメンテーションの進展を確認する。